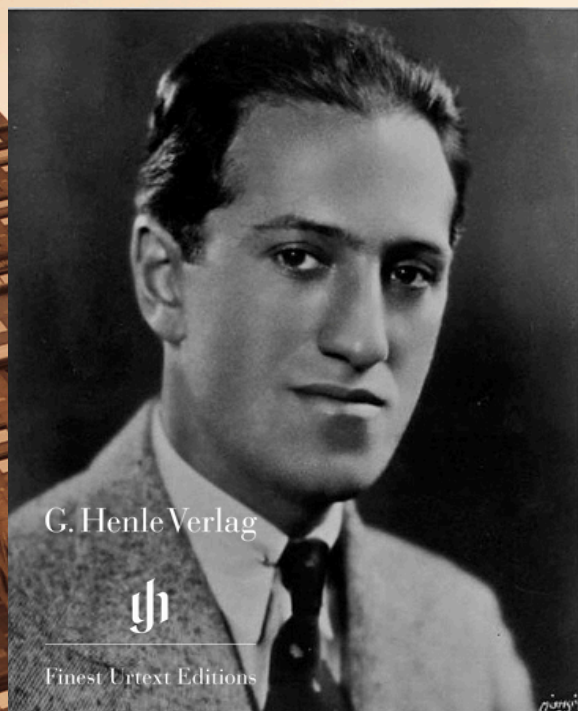


G. ガーシュウィン

協奏曲 へ長調



この作品は ...

- ガーシュウィンが成功の絶頂期にあった1925年、ニューヨークで作曲しました。
- ニューヨーク・シンフォニー・ソサエティーが作曲を委嘱しました。この楽団の指揮者ウォルター・ダムロッシュは、ラプソディー・イン・ブルーに感銘を受けていました。
- 彼はこの委嘱で、ソングライターとして有名だったガーシュウィンをブロードウェイミュージカルからよりクラシックに向かわせようとしていました。
- ガーシュウィンは自ら「もっともクラシックな作品」と語っています。

ジャズの役割

- 交響曲の形式とクラシック音楽がジャズに出会ったのは、音楽史においてこの作品が初めてです。
- この協奏曲がジャズではなく、ジャズの要素を使用しているということをガーシュウィンは非常に重要視していました。
- ガーシュウィンは「ジャズのリズムを使用し、多かれ少なかれ、従来の交響曲の手法で作り上げること」を試みました。同時に、ニューヨークの雰囲気をとらえた「ニューヨーク協奏曲」になることを目指しました。

ヘンレ版について

- オーケストラスコアがガーシュウィンの存命中に出版されることはありませんでした。ヘンレ版では、特にオーケストラ・パート譜における、死後に印刷された版の編曲が取り除かれています。この版のオーケストラスコアはブライトコプフ&ヘルテル社で出版されました。
- ピアノ・パートはガーシュウィンの存命中にピアノ・リダクションとして出版されたため、音楽テキストの信頼性がより高いです。

Gershwin

Urtext

Concerto in F
Klavierauszug

Concerto in F
Piano Reduction